地域と学校　その6

石小(いしぐれ)の、そして石榑の100歳を祝う

小松 尚（名古屋大学大学院環境学研究科准教授）

秋はイベントシーズン。石小（石榑小学校のことを地元ではこう呼びます）では9月30日に新しくなったグラウンドで初めての運動会が開催され、各自治会のテントがトラックをぐるりと囲む中、トラック中央に竜ヶ岳へ向かっていくかのようにセットされた徒競走コースを、子どもたちが駆け抜けていきました。そして運動会が終わって10月上旬には秋祭りが行われましたが、今年はもう一つ、とても大きなイベントが待っていました。

今回は建設委員会での建て替え議論は一休みして、10月21日（日）に開催された石榑小学校100周年の記念式典や記念行事の様子をお伝えします。

100年の光・記録・記憶

記念式典は午前9時から体育館で始まりました。突然、場内の照明が落とされ、優しいピアノの調べとともに星空の写真がスクリーンに映し出され、それにナレーションが重なります。「石榑の北東の夜空に輝くペルセウス座のアルゴルという恒星は、地球から100光年離れた位置からその輝きを届けています。つまり、ちょうど100年前に瞬いた光を私たちは今見ているのです。100年前、それは石榑小学校が生まれた年です…」

この演出に会場を埋め尽くした全校児童、保護者、地域の人々の目は、スクリーンの映像に釘付けになりました。100年前の校舎建設の苦労話、戦時中の悲しい出来事、RC校舎を造ったときの顛末、そして現在の新しい校舎の議論の風景が、スライドとナレーションで紹介されていきました。100年の記録と記憶に皆、引き込まれていきます。このスライドショーを厳かに引き立てていたピアノ演奏は現在、ドイツ国立ライプツィヒ音楽大学に留学している平成5年の卒業生によるもの。この日のために帰国しての演奏です。懐かしい映像だけでなく、演奏にも耳が向かいます。

映像と音楽で石小の100年の歴史が綴られた後、100周年記念事業実行委員会の委員長が参加者の前に進み出ました。RC校舎の建設時に育友会会長として奔走したあのHkさんです。スライドショーを振り返りながら、100年間引き継がれてきた石小への思いを未来へつないでいきたいと話しました。次に校長先生、そして市長が子どもたちに語りかけるように挨拶をして、いわゆる式辞、祝辞は早々に終了しました。

・スライドショーとピアノ伴奏
映像と音楽で石小の100年の歴史が綴られました。
それは石榑の100年を振り返る時間でもありました。

故郷は遠くにありて思うもの

次はお祝いメッセージを紹介するコーナーです。てっきり祝電が読み上げられるのだろうと思っていたのですが、違いました。再びステージ上のスクリーンが明るくなり、そこには石榑小学校が真ん中に示された航空地図が現れました。これは、インターネットを使って石榑を離れて海外で生活している卒業生からメッセージをもらおうという企画でした。

最初は、1年前から仕事でアメリカ・テネシー州に住む家族です。インターネット上の地球儀がぐるりと回ってアメリカのお住まいの上までやってきた後に、お父さんと子どもの姿が映し出されました。しばらく映像がノイズできれいに見られなかったのですが、はっきり見えるようになった瞬間に、ワーッという歓声が子どもたちから上がりました。昨年まで一緒に学んだ6年生たちからです。実は私も驚きました。というのも、お父さんは建設委員会に参加していた方だったのです。最近顔を見ないなあと思っていたのですが、まさかアメリカにいるとは。現在のお住まいも自然が豊かな所だけどやっぱり石榑の方がいい、でもあと4、5年はアメリカに滞在するとのこと。

また、昨年まで石小に赴任し、今年からバンクーバーに留学している先生との中継もありました。昨年担任をしてもらった子どもたちが先生に声をかけます。先生の顔がスクリーンに大きく写し出されているのですが、久しぶりだったせいか子どもたちはちょっと恥ずかしそうでした。

さらに、アメリカ・オハイオ州の大学で建築を学び、現在は当地で教鞭をとりながら設計の仕事もしているという卒業生からのメッセージが届きました。2年前に里帰りをした際に、明確なコンセプトをもって建て替えられたわが母校を見て感じた「どれくらい子どもたちが建物と建築の違いに気づいているでしょうか」という言葉が会場に響きます。彼女の「建築が図工の時間などで取り上げられたら」という願いとともに。

式典はこの後、大安寿太鼓が披露されて、10時30分に終了しました。100年を振り返る演出や海外でも活躍している仲間の様子は、子どもたちや石榑の人々の目に誇らしく映ったことでしょう。

作って食べて、みんなで楽しむ100周年

式典の後、今度は子どもたちが教室で総合学習の時間に学んだことを活かした取り組みを披露しました。6年生は戦争と命の学習から、昔の行軍はどれほど思い荷物を背負って歩いていたのかを体験するコーナーとともに、水団（すいとん）をつくって振舞いました。具だくさんの水団でしたが、子どもたちが配膳してくれ、それを子どもたちお手製の竹箸でいただきました。箸はお土産になるように食後に子どもたちが洗ってくれるという段取りです。米作りを学んだ5年生は中庭で収穫したお米で餅をつき、あんこ餅などを作りました。子どもたちが盛り付けて配るお餅のコーナーには高齢者の方々が長蛇の列を作り、あっという間になくなってしまいました。

・6年生の水団
6年生による具だくさんの水団。昔はどんな味だったのかな？

・5年生のお餅
5年生がお餅を振舞いました。
あんこやココアなど…あっという間になくなりました。

4年生は竹炭を使っての炭工作です。ビーズなども取り合わせてアクセサリーを作りました。3年生は育てた蚕が作った繭からの糸取り。私も小学生の頃に学校で習ったなつかしい作業です。2年生はポップコーン作り。これも学校の農園で育てたトウモロコシの実をフライパンで炒めたのですが、ポン!という音がするたびに大騒ぎです。1年生は地域の方々に昔の遊びを教えてもらいました。お手玉やコマ回し、おじいちゃんやおばあちゃんが子どもたち以上に楽しんでいました。

そうこうしているうちにお昼の時間になりました。今日はサツマイモご飯と豚汁です。サツマイモご飯は家庭科室で、豚汁は隣の理科室で料理されました。今年はサツマイモの出来がよかったので甘いですよと渡され、私もご飯を頬張りました。豚汁の方は各自治会が所有する大鍋を集めて作られました。10個以上あったでしょう。豚汁の味噌は昨年の6年生が仕込んだものとのこと。豚汁作りを指揮している女性曰く、「子どもたちに、こんな楽しいことやおいしい物があったな、と憶えておいてほしいという一念でやってるのよ」。作って食べてみんなで楽しむ。石榑らしい、これまで通りの楽しみ方です。

外では、卒業生の有志がみたらしや五平餅、焼きそばや串カツなどを朝から料理して配りました。20名も集まった学年や、このために名古屋から戻ってきた卒業生もいました。

100年への自負

子どもたちの行事とともに、もうひとつ大事な展示がありました。それは、尋常小学校の教科書や写真、大時計といった石榑小学校の様々な思い出の品々とともに並べられた、石榑の昔の農業や生活の品々です。足踏み脱穀機や除草機など昔の農機具、なつかしい足踏みミシンや柄杓(ひしゃく)のようなアイロン等。石榑の営みや生活の記憶がつまった空間でした。今では何に使うのかよくわからない道具も陳列され、クイズに答えられない私に隣のおじいさんが解説してくれました。

ある年配の実行委員の方が「今日は石小の100年とともに石榑の100年の苦労を分かち合い、祝っているんだよ。そのつもりで私は実行委員会に参加してきたんだ」と私に語ってくれましたが、それは学校と地域への自負を感じさせる一言でした。

・農機具の今昔
石榑ホールで展示された懐かしい品々。
農を中心にした石榑の生活を改めて確認する場でした。

校庭のメモリアル広場に20年後の自分へのメッセージを託したタイムカプセルが埋められましたが、その引き換えにもらったのが20年後の開封式招待状でした。よく見るとそこには「2027年10月24日（日）10時から」の文字が。石榑の人々は、早くも120周年に向かって走り始めました。